

牛群検定通信 No128

～子牛の寒冷対策について～

いよいよ冬本番です。乳牛は寒さに強いと一般に言われています。乳牛は、ルーメンで飼料を発酵させることで、発酵熱を得ることができるからです。言わば、カイロを体内に持っているようなものです。しかし、子牛はルーメンが未発達で発酵熱を得ることはできません。すなわち、カイロは持っていないことになります。今回は、このカイロを持たない、寒がりな子牛の冬季管理の一般的な注意点を紹介します。

1 一般的な冬季の分娩時の注意点

- 1) 分娩：羊水で濡れた子牛は急速に体温を失います。清潔なバスタオル等で速やかに拭き取るようにしてください。
- 2) 初乳：冬季でなくとも初乳の給与は大変に重要です。初乳は分娩後6時間以内に1回2リットルを2回、計4リットルを、39～42度に加温して与えるのが、理想的です。初乳の品質については3で紹介します。
- 3) 保温：体力の弱っている子牛は湯たんぽ等での保温を行ってください。

2 一般的な冬季の子牛管理

- 1) 管理：子牛は寒さに弱いので、カーフジャケットなどのウオーマー等の使用も有効です。カーフハッチ利用については、日当たりや風向き、雨水の浸入などの地形に気をつけます。
- 2) 敷料：糞尿で濡れた敷料は体温を奪います。敷料はたっぷりと与え、こまめに交換します。ニーテストなどで湿気をチェックしてください。
- 3) 換気：冬季であっても換気は必要です。換気が不十分だとホコリやアンモニアの濃度が高まり、肺炎などの呼吸器系の疾病を誘発させます。また、換気と送風は異なります。すきま風などが子牛に当たっていないか確認してください。
- 4) 飲水：水も39～42度に暖めたものを利用するといいいでしょう。

3 初乳について

初乳は、子牛に免疫を与え、疾病に強い子牛とするものです。このことから一般に良い初乳とは直接の母牛のものである必要はなく、次のようなものをあげることができます。

- 1) 体細胞数の低いもの
- 2) 2産以上の経産牛の初乳
- 3) 分娩前に漏乳していないもの

牛群検定成績を使って、前乳期の体細胞数が低い母牛から、凍結初乳や発酵初乳を作成しておくといいいでしょう。もちろん、利用するときは加温してから与えます。

また、母牛の乾乳時の蛋白飼料を充足させ、胸腺が良く発達した子牛を分娩するようにすることも非常に重要です。